２章　香港・シンガポールの
バレエ団運営に関する調査報告

2章　香港・シンガポールの
バレエ団運営に関する調査報告

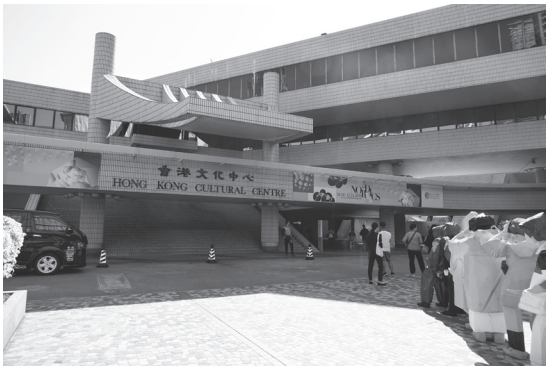
2－1　概要

本調査では、アジアの都市で活動を行うバレエ団の事例として、香港・シンガポールにおいてそれぞれ代表的なバレエ団である、香港バレエ団、シンガポール・ダンス・シアターを対象とし、経営面を統括している芸術監督または事務局長への聞き取り調査を行った。

2－2　香港バレエ団

1979年設立。香港、中国本土、台湾、日本、韓国などのアジア諸国、オーストラリア、アメリカなど、ダンサーたちの国籍がじつに多様なのが大きな特徴の1つ。2017年に現在の芸術監督、セプティム・ウェブレ氏がバレエ団を率いるようになってからは、ウェブレ氏自身が振付・演出を手がけるオリジナル作品が次々にヒット。興行収入も右肩上がりで勢いを増すなか、2019年に創立40周年を迎えた。

しかし2019年、香港は民主化を目指す若者を中心としたデモ隊と、香港警察隊が激しく衝突。取材を行った2019年秋も、公演がキャンセルを余儀なくされるなどの事態が相次いでいた。混乱した情勢は今なお続き、香港バレエ団は困難なシーズンを迎えている。



香港バレエ団が公演や稽古を行う劇場
「香港芸術文化中心」の入口の様子

「香港芸術文化中心」のエントランスホール
（公演前のパフォーマンスにも使用されていた）

■ 聞き取り調査①

調査日：2019年11月1日

香港バレエ団　芸術監督　**セプティム・ウェブレ氏**

キューバ系アメリカ人の家庭に生まれる。1999～2016年まで17年間、ワシントン・バレエの芸術監督を務めた。在任中は同バレエ団の予算規模を500％増加させ、その手腕を高く評価された。2017年香港バレエ団芸術監督に就任。振付家としての活動も旺盛で、同団でさっそく振付・演出を手がけた『不思議の国のアリス』や『ザ・グレート・ギャッツビー』は大きな成功を収めた。

＜主なヒアリング項目＞

・香港におけるバレエ団への経済的支援
・ファンドレイジングを成功させるための工夫
・戦略的なプログラム構成
・香港バレエ団の特徴と香港のバレエ事情

■ 聞き取り調査②

調査日：2019年11月1日

香港バレエ団　事務局長　**ポール・タム氏**

＜主なヒアリング項目＞

・香港バレエ団の概要
・オーディションについて
・ダンサーの雇用形態と福利厚生
・予算規模、収入、ファンドレイジング
・プロモーションとブランディング戦略
・香港のバレエ事情
・今後の展望

2－3　シンガポール・ダンス・シアター

1988年に設立された、シンガポール史上初のプロフェッショナル・ダンス・カンパニー。創設者は2人のシンガポール人ゴー・ソー・キムとアンソニー・ゼン。2008年、創設者の二人から厚い信頼を寄せられていたヤネック・シェルゲン氏が芸術監督に就任。2013年にはカンパニーの拠点を繁華なブギス地区に建つ大型商業施設 Bugis+（ブギスプラス）の中に移し、4つのスタジオや衣裳室なども備える充実した設備のなかで、約40名のダンサーたちが日々の稽古や多彩なレパートリーに取り組んでいる。

■ 聞き取り調査

調査日：2019年11月4日

シンガポール・ダンス・シアター 芸術監督　**ヤネック・シェルゲン氏**

スウェーデン・ヨーテボリ出身。1971年カナダのロイヤル・ウィニペグ・バレエ入団、翌年米国ペンシルベニア・バレエに移籍。ワシントン・バレエやスウェーデン王立バレエ等でバレエマスターやバレエ教師を歴任したのち、2008年シンガポール・ダンス・シアター芸術監督に就任。

Bugis＋7階エレベーターホールから続く
SDTの稽古場入口前スペースの様子

稽古場エントランスに華やかに展示された
SDTレパートリーの衣裳とヤネック・シェルゲン氏

＜主なヒアリング項目＞
・カンパニーの特徴
・カンパニーの概要と予算規模
・ダンサーたちの給与と生活
・カンパニーの収入と内訳
・ファンドレイジング施策について
・シンガポールのバレエ事情、その他